

さい、議会だより



平成30年度佐井村立福浦小中学校始業式「1日も休まないことが目標です！」（関連記事：8ページ）

3月定例会の主な内容

- ☆平成30年度の各会計予算 2ページ
- ☆一般質問に3名登壇 6～11ページ
- ☆委員会の活動報告 12～13ページ
- ☆お元気ですか「働くことが生きがい」 14ページ

平成30年第1回定例会は、3月12日から15日までの4日間の会期で行われました。村長から、補正予算案4件、当初予算案6件、条例案12件、その他2件の計24件。議員から条例案1件、意見書案4件の計5件が提出され、それぞれ原案どおり決しました。

平成30年度の村の予算 総額 33 億 1427 万 1 千円

区 分		平成30年度予算	平成29年度との比較
一 般 会 計		24 億 4720 万 0 千円	△4222 万 8 千円
特 別 会 計	簡易水道事業	7557 万 1 千円	△ 86 万 7 千円
	下水道事業	1 億 6424 万 3 千円	△2519 万 0 千円
	国民健康保険	3 億 1372 万 7 千円	△1 億 2366 万 2 千円
	介護保険	2 億 8771 万 7 千円	797 万 8 千円
	後期高齢者医療	2581 万 3 千円	53 万 3 千円
合 計		33 億 1427 万 1 千円	△1 億 8343 万 6 千円

議員提出議案

○佐井村議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

当村の財政状況が依然として厳しいため、議員自ら経費の削減を行なうもの。
平成29年度に引き続き、平成30年6月及び12月に支給される期末手当は、20パーセント以内とする加算率を適用せず、さらに支給額の5パーセントを減額した額とする。

審議した主な議案

○佐井村特別職の職員等の給料等に関する条例の一部を改正する条例

厳しい財政状況を考慮し、平成30年度も特別職の職員の給料及び期末手当の額を減額するもの。

村長 給料15パーセント、期末手当 加算率なし・5パーセント減額
副村長 給料10パーセント、期末手当 加算率なし・5パーセント減額
教育長 給料10パーセント、期末手当 加算率なし・5パーセント減額

○佐井村国民健康保険条例の一部を改正する条例

平成30年4月1日から国民健康保険の運営を青森県と佐井村が共同で行うため、「村が行う国民健康保険」を「村が行う国民健康保険の事務」に、「国民健康保険運営協議会」を「村の国民健康保険事業の運営に関する協議会」に変更する。

○佐井村公の施設に係る指定管理者の指定について

平成30年3月31日をもって契約期間が満了する2施設の指定管理者を指定。指定期間は、平成30年4月1日から平成35年3月31日までの5年間。

佐井村高齢者生活福祉センター「あすなる」

社会福祉法人 佐井村社会福祉協議会（佐井村）

佐井村斎場「蓮精苑」

株式会社 サンアメニティ東北

（秋田市）



報酬審議会の開催を要望（平成29年8月）

一般会計予算で実施する主な事業

施設等の整備を重視

【平成30年度の新規事業】

○訪問診療車整備事業・・・228万円（財源：青森県核燃料物質等交付金）
歯科保健センターの訪問診療車1台を更新する

○市町村元気事業・・・216万円（財源：青森県未来を変える元気支援事業費補助金）
佐井村魅力発信体験プログラムの開発を業者に委託する

○町村の魅力発信事業・・・204万円
（財源：青森県町村会助成金）
青森市で佐井の食材を使った「佐井村祭り」開催、
佐井村のガイドマップ作成などを実施する

○村道維持業務・・・230万円
糠森2号線（矢越屯所付近）の防護柵を修繕する
仲町支線（箭根森八幡宮への階段）の転落防止柵を移設する

○牛滝川河川改修事業・・・977万円
（財源：河川整備事業債）
牛滝川護岸の根継ぎ（護岸の根元の補修）工事を実施する

○全国瞬時警報システム受信機更新事業・・・324万円
（財源：全国瞬時警報システム整備事業債）
全国瞬時警報システム（^{ジェイアラート}J-ALERT）の受信機を更新する

○児童生徒送迎車両整備事業・・・1163万円
（財源：へき地児童生徒援助費等補助金）
福浦小中学校と佐井小学校・佐井中学校の統合
に向け、佐井小学校スクールバス（マイクロバス）
1台を更新する

○佐井小学校教員住宅整備事業・・・3348万円
（財源：学校施設環境改善交付金、教員住宅整備事業債）
老朽化した教員住宅3棟を解体し、2棟を新築する

○教員住宅管理業務・・・619万円
佐井中学校教員住宅の屋根などの補修、水回りの改修を
実施する
牛滝小中学校教員住宅のトイレを洋式に改修する



昨年の佐井村祭り（アップルパレス青森）
今年は6月21日に開催予定です



佐井小学校スクールバスで登校する児童



牛滝小中学校教員住宅

陳情4件を採択し意見書を提出

3月定例会では、4件の陳情書を総務産業常任委員会に付託しました。
委員会での審査の結果、4件とも採択とし、関係機関へ「意見書」を提出しました。

米の生産費を償う 価格下支え制度を求める陳情

【陳情者】 青森県農民運動連合会
会長 森 淳一

【審査結果】 **採択**

【付託委員会】 総務産業常任委員会

【陳情の趣旨】

稲作農家の経営を支える「農業者戸別所得補償制度」が平成30年度米から廃止されるため、これに代わる制度の確立を求める。

【採択の理由】

国民の食糧、地域経済、環境、国土を守るため稲作農家の経営を下支えする政策が必要であると考えするため。

種子法廃止に伴う 万全の対策を求める陳情

【陳情者】 青森県農民運動連合会
会長 森 淳一

【審査結果】 **採択**

【付託委員会】 総務産業常任委員会

【陳情の趣旨】

「主要農作物種子法（種子法）」の廃止が決定したことにより、今後、国や都道府県の取り組みが後退しないよう万全の対策を求める。

【採択の理由】

地域の共有財産である種子を守り、改良された新品種を企業が独占することがないような対策を講じる必要があると考えため。

日本政府がすみやかに 核兵器禁止条約に署名し国会が 批准することを求める陳情

【陳情者】 青森県原爆被害者の会
会長 藤田 和矩

【審査結果】 **採択**

【付託委員会】 総務産業常任委員会

【陳情の趣旨】

平成29年7月、国連で122の国が賛成し「核兵器禁止条約」が採択されたため、世界で唯一の戦争被爆国としての役割を果たすことを求める。

【採択の理由】

平成12年12月、佐井村議会として平和自治体であることを宣言しているため。

地域別最低賃金の引きあげと 全国一律最低賃金制の実現、中小 企業支援の拡充を求める陳情

【陳情者】 青森県労働組合総連合
議長 奥村 榮

【審査結果】 **採択**

【付託委員会】 総務産業常任委員会

【陳情の趣旨】

地域別の最低賃金により労働力の流出が懸念され、中小企業や地域が疲弊している状況の改善を求める。

【採択の理由】

賃金の地域間格差を縮小し、労働者の所得向上を図るとともに、中小企業への支援が必要であると考えため。

特定鳥獣管理計画 農作物等の被害防止を

川畑委員

調査によると、村内のニホンザルは平成28年度に18群740頭、平成29年度に16群706頭とされている。

捕獲頭数を増やす

産業建設課長

1年間の捕獲駆除が25頭程度では、農作物などの被害防止に効果がないのではないか。

農作物などに被害を及ぼすニホンザルは、これまでに約220頭捕獲駆除している。

平成29年度から平成33年度までの「第2次



3月中旬、矢越地区の大型檻に入ったニホンザル（質問時点では、実績はありませんでした）

大型檻への対応は

川畑委員

青森県が矢越地区に設置している大型檻では、まだ1頭も捕獲できていないと聞かすが、村として今後どう対応するのか。

設置場所の移動を検討している

産業建設課長

県と村が協議し、設置場所を選定した。設置から約3か月経過するが実績がないため、檻の移動を検討している。

第2種特定鳥獣管理計画」

では、捕獲許可を以前の250頭から341頭としており、今後も農作物などの被害防止に努めていく。

長崎大学水産学部との連携事業 「水中集魚灯」の導入は

川畑委員

長崎大学水産学部との連携事業として、水中集魚灯の実証実験が実施されている。

新年度も引き続き実施することのだが、今後の導入は考えているのか。

実験は継続可能なら導入する

参事・総合戦略課長

平成29年度に実施した実証実験は、平成30年度も引き続き予定している。

周辺への影響、漁獲量の違いを検証し、可能であれば導入したい。

漁協と連携すべき

川畑委員

導入に際しては、漁業協同組合と連携すべき。

十分協議する

参事・総合戦略課長

漁業協同組合とは事前に十分協議し、実証実験を開始した。今後導入することになった場合も、トラブルが起こらないよう連絡を密にする。



定置網に設置している集魚灯



坂井文明議員

日本で最も美しい佐井村づくりビジョン、アクションプラン 成果が見える事業を実施せよ 村長 — プロジェクト・チームを組織し村全体で取り組む

坂井議員

村では産官民による「日本で最も美しい佐井村づくり策定委員会」「日本で最も美しい村をつくる会」を発足させ、昨年11月にはビジョンとアクションプランが策定されている。

これらはすべて2030年までに実現できるのか。

アクションプラン
実現させたい

村長

28のアクションプランの中には、すぐに着手で

できるものと、実現に数年を要するものがある。

今後、プロジェクト・

チームを組織し村全体で取り組み、2030年までに実現させたい。また、2030年までに実現できなかつたとしても、継続して取り組みたい。

プロジェクト・
チーム立ち上げは

坂井議員

プロジェクト・チームは、いつ立ち上げるのか。

早めに組織したい

参事・総合戦略課長

新年度の早いうちに組織したい。

できるものから
実施すべき

坂井議員

アクションプランは、確実に実現できそうなのに絞って取り組むべきではないか。

結果に至るまでの
取り組みが肝要

村長

良くない結果が出るものがあるかもしれないが、結果に至るまでの努力は、村民にとって良い方向に作用すると考えている。

海岸漂着物の
撤去は

坂井議員

平成29年度、原田と矢越地区海岸の海岸漂着物



住民ボランティアによる海岸清掃では大量の網やロープは撤去できない(矢越地区海岸)

業者委託したのか

坂井議員

住民ボランティアではなく、業者委託か。

15トン回収済み

村長

業者に委託し、15トンの漂着ゴミを回収した。

子ども会などの
清掃活動も実施

産業建設課長

子ども会・育成会、下北ジオパークサポーター



日本で最も美しい佐井村づくり推進本部の様子(平成29年5月:アルサス)

「日本で最も小さくかわいい漁村」 実現のための28のアクションプラン 【抜粋】



アルサス周辺のイメージ



アクション2 プロジェクト・ハウスをつくる

プロジェクト・チームの活動拠点。メンバーと村民が情報を共有する場となる。

アクション7 佐井産ワインやクラフトビールをつくる

村内の高原でぶどうやホップを栽培し、耕作放棄地の再生と景観の回復を図るとともに、ワインやクラフトビールをつくる。

アクション11 漁港を利用したヨットハーバーをつくる

利用者が減少した漁港を、ヨットハーバーに転用する。

アクション15 温泉・温浴施設をつくる

村民も訪問者ものんびり癒される温泉・温浴施設をつくる。

アクション18 空き家を活用して、若者の住居をつくる

セルフ・リノベーション（自分でできる範囲の改修）やシェアハウス（共用住宅）などを導入し、住むと同時に仲間ができるような工夫をする。

アクション25 環境に優しい村づくり

リサイクルやリユースを進め、環境に優しい村づくりを進める。

アクション28 村民全員参加の運動会を開催する

誰もが参加できる村民運動会を開催し、村の結束力を高める。

坂井議員
アクションプランの実施にあたり、重点モデルエリアが指定されているが。

重点モデルエリアとは

村長
国際的な取り組みは、今後の展開による。

今後の展開による

坂井議員
朝鮮半島のものとみられる船の漂着など、潮流の関係で同じ場所にゴミが寄る。ゴミを出さない取り組みとして「海ゴミ問題の国際ネットワークに加盟」というプランもあるが。

国際的な取り組みは

の会による海岸清掃も実施されたが、大型のものは撤去できず、業者が回収した。

村長
50万円は目安であり、事業内容は今後の話し合いによる。

今後決定する

坂井議員
3地域への補助金として、50万円ずつ予算計上されている。どのような事業を予定しているのか。

50万円を実施の事業とは

村長
地域ごとに、問題点に参事・総合戦略課長
ビジョンとアクションプランを照らし、取り組みを検討してもらう。

地域ごとに取り組みを検討

村長
原田、矢越、牛滝の3地域を指定している。

3地域を指定

村長
取り組みの成果をみなさんに見せられるよう努力する。

見せられるよう努力する

坂井議員
美しい村への取り組みは、3年目となる。そろそろ成果が見えるものにする。予算を配分すべきではないか。

取り組みの成果は



宮川尚議員

平成31年3月 福浦小が佐井小へ、福浦中が佐井中へ統合 児童生徒の通学環境を整備せよ 村長 — 冬場の除雪など、安全確保に努める

宮川議員

平成31年3月、福浦小中学校は閉校となり、佐井小学校・佐井中学校へ統合される。

福浦地区の児童生徒の通学バスの運行計画は。

スクールバスは2台体制

村長

現在の佐井スクールバスを買い替え、佐井中学校バスと2台体制で送迎する。中学生は朝7時に出発し、夜7時20分に帰宅する見込み。

特に冬場は不安

宮川議員

朝早く、夜遅いので、冬場の通学に不安がある。

国道の除雪
県に働きかける

村長

地区の方々からも同様の意見があるため、特に通学路の除雪には配慮し、安全を確保するよう県に働きかける。

閉校に向けた
取り組みは

宮川議員

閉校に向けた取り組みは。

10月27日に
閉校式典を予定

村長

閉校記念事業実行委員会を設立し、10月27日に予定している閉校記念式典と思い出を語る会の

準備を進めている。
学校行事での
イベントは

宮川議員

記念式典のほか、学校行事と連携したイベントは実施しないのか。

現在のところ
計画はない

教育次長

現在のところ、計画はないと聞いている。

福浦少年
消防クラブは

宮川議員

福浦では少年消防クラブが組織され、学校と地区が連携して取り組んできた。閉校と同時に解散となるのか。

佐井小と協議中

教育長

佐井小に引き継ぐことができないか、打診している。

閉校後の校舎は

宮川議員

閉校後の校舎の利活用計画は。

利活用は
今後検討する

村長

築20年と比較的新しい校舎のため、有効に活用したい。美しい村づくりの取り組みと合わせ、今後検討していく。

教員住宅は

宮川議員

地区内の教員住宅はどうするか。

古い住宅は
解体する

教育次長

耐用年数内の住宅は、佐井小及び佐井中の教員住宅として管理する。それ以外の住宅は、解体する。



児童生徒、教職員、地域住民が参加する福浦小中運動会
(昨年度は悪天候のため体育館で開催)

樋口村長の任期満了 公約は実現できたのか

村長 — 着手した政策の成果は、これから



子育て支援として子供の医療費無償化を高校生まで拡大
(佐井村保育所歯科保健指導の様子)

90・9パーセント
着手した

村長

7項目・22政策のうち
20政策、90・9パーセントに着手した。

宮川議員

村長は就任時、子育て、雇用、産業、暮らし、集い、長寿、行政改革の7つの公約を掲げた。任期満了に当たり、どの程度実現に至ったと考えるか。

90・9パーセント
実現はしていない

宮川議員

政策の実現率は90・9パーセントではないと思うが。

これからの成果が
期待できる

村長

蒔いた種（政策）の芽（成果）は出ていないという思いはあるが、これ

からの成果が期待できる事業もある。

平成30年度
何に取り組みか

宮川議員

平成30年度、特に力を入れた事業は。

漁師縁組事業や
美しい村づくり

村長

漁師縁組事業、美しい村づくり関連事業には、重点的に取り組みたい。また、スクールバスの購入や教員住宅の整備など、教育環境も整えていきたい。

再選された場合の
村政運営は

宮川議員

4月に選挙が予定されているが、再選された場合の村政運営をどう考えるか。

真の住民自治を
確立したい

村長

婚活事業で人口減少対策、漁師縁組事業で漁業者の確保への取り組みを継続する。また、美しい村づくりへの取り組みを通し、真の住民自治の確立を図りたい。

時間と人材が
必要ではないか

宮川議員

それらの目標達成のため

めには、時間と人材が必要と思うが。

行政組織の
強化を図りたい

村長

住民ニーズの多様化への対応、危機管理対策を取るなど、十分な体制を確保しなければならぬ。そのためには行政組織の強化として、空席となつている副村長の配置を考えたい。



多くの方が参加した日本で最も美しい佐井村づくりシンポジウム
(平成29年11月：アルサス)



竹内典和議員

考えに相違が生じ村を去った漁業研修生 漁師縁組事業は順調か

村長 — しつかりサポートする

竹内典和議員

漁師縁組事業は、画期的な取り組みとして全国から注目されている。

しかし先日、1人の漁業研修生が村を去った。その経緯は。

事業への不満と家庭の事情による

村長

間もなく事業開始から1年を迎えるため、村、

竹内典和議員

その研修生は、事業内

事業内容に変更は

村長

事業内容は募集要項に明記し、変更していない。採用時、研修生には十分説明し、理解いただいた上で委嘱している。

変更はしていない

漁業協同組合、指導者と本人で意見交換を行なった。その中で、事業が期待した内容ではなかったこと、また、家庭の事情もあり1月末で辞退したいとの申し出がされた。

容を理解し応募したと思われるが、村や漁協に不信感を抱いていたと聞く。事業内容は変更されたのか。

村長

漁業権取得への焦りが見られた

技能習得への対策は

竹内典和議員

新聞報道によると、指導者の指導方針にも不満があったようだ。

短期間で技能を習得させるための対策は取られていなかったのか。

しつかり

指導していた

村長

指導者としてはしつかり指導していたつもりだったが、日常生活での意思疎通もうまくいっていなかったようだ。

漁業権はない

参事・総合戦略課長

研修期間中は、ない。

認識に相違があったのでは

竹内典和議員

研修中でも、自分が捕獲した魚や採取したものを出荷し、収入を得られると認識していたのでは

研修中の漁業権は

竹内典和議員

研修中、彼らに漁業権はないのか。



磯谷地区漁師会で研修中



研修中の牛滝地区で「おこもり」のお手伝い

誤解があったと
思われる

参事・総合戦略課長

当初は事業の内容を理解していたと思われるが、何かのきっかけで誤解が生じたと思われる。

再び研修を
希望した場合は

竹内典和議員

その研修生が、再び研修を希望することはないか。

漁業研修生として
採用はしない

村長

ないものと思うが、仮に希望したとしても、漁師縁組事業で採用することとは考えていない。

ほかの3人は
研修を継続するか

竹内典和議員

ほかの3人は、研修を継続するのか。

研修を続ける

村長

3人とも事業内容を十分理解しており、目標に向かって努力したいと話している。

研修終了後の
生活に不安

竹内典和議員

彼らが研修終了後、村に残り漁業で生計を立てていくためには、村の支援が必要と考えるが。

しっかり
サポートする

村長

漁業で生活を維持するのは非常に厳しいと予想されるが、3人ともそれを承知している。村に定住してもらえよう、しっかりサポートする。



漁業研修生として総務副大臣との車座ふるさとトークに参加
(平成29年6月)

地方創生における浜の再生講演会 ～北通りの漁業補償について～

派遣議員代表 坂井 文明

「北通六漁協連絡協議会」が主催し、1町2か村が後援した「地方創生における浜の再生等講演会」が平成30年2月24日、大間町総合開発センターで開催され、当村議会も出席案内を受けて参加した。地方創生における浜の再生などの観点から様々な情報を得るとともに、防衛省の漁業補償などの理解を深めるため、漁業関係者など約300人が参加していた。

田中大間漁協組合長のあいさつに続き、来賓の金澤大間町長、江渡聡徳衆議院議員が祝辞を述べ、防衛省地方協力局職員による講演に入った。

松本恭典補償課長から、自衛隊または駐留軍が水面を利用して訓練などを行なう場合、法律または契約により、一定の区域及び期間を定めて漁業の操業を制限または禁止し、これに伴い漁業者が受けた漁業経営上の損失を補償する。青森県には設定区域が5か所あり、この中の六ヶ所対空射撃場水域を利用する北通りの漁業者のイカ漁に対して、本年度から補償の対象になっていることなどが紹介された。

続いて、榎賀政浩周辺環境整備課長から、周辺環境整備法などの「基地周辺対策事業」に関する地方自治体や市町村への補助金交付の仕組みなどが紹介された。

国の支援策については、1次産業などを直接所管する省庁などのほかにも様々な支援があることを認識する機会となった。今後とも、あらゆる機会を通じて情報を得ることの重要性を再確認した講演会だった。

「北通六漁協連絡協議会」が主催し、1町2か村が後援した「地方創生における浜の再生等講演会」が平成30年2月24日、大間町総合開発センターで開催され、当村議会も出席案内を受けて参加した。地方創生における浜の再生などの観点から様々な情報を得るとともに、防衛省の漁業補償などの理解を深めるため、漁業関係者など約300人が参加していた。

田中大間漁協組合長のあいさつに続き、来賓の金澤大間町長、江渡聡徳衆議院議員が祝辞を述べ、防衛省地方協力局職員による講演に入った。

松本恭典補償課長から、自衛隊または駐留軍が水面を利用して訓練などを行なう場合、法律または契約により、一定の区域及び期間を定めて漁業の操業を制限または禁止し、これに伴い漁業者が受けた漁業経営上の損失を補償する。青森県には設定区域が5か所あり、この中の六ヶ所対空射撃場水域を利用する北通りの漁業者のイカ漁に対して、本年度から補償の対象になっていることなどが紹介された。

続いて、榎賀政浩周辺環境整備課長から、周辺環境整備法などの「基地周辺対策事業」に関する地方自治体や市町村への補助金交付の仕組みなどが紹介された。

国の支援策については、1次産業などを直接所管する省庁などのほかにも様々な支援があることを認識する機会となった。今後とも、あらゆる機会を通じて情報を得ることの重要性を再確認した講演会だった。

総務産業常任委員会活動報告

佐井村漁協平成29年度決算報告

総務産業常任委員会 委員長 山口 捷夫

総務産業常任委員会は、

となるものです。

昨年15回の委員会を開催

し、付託事件の審査や村

政全般に関する事務の調

査など、年間を通して活

動しました。また、2月

26日、佐井村漁業協同組

合から平成29年度の決算

状況等について説明を受

けましたので、その要点

を報告します。

坂井組合長、宮川総務

部長から収益全体で4億

4028万7千円、費用

合計で4億3709万4

千円、当期剰余金は31

9万3千円の黒字であり、

昨年引き続き黒字決算

となったとの報告があり

ました。マダラの豊漁に

より、計画を上回る水揚

げ量及び水揚げ額となっ

たことが要因で、6億を

超える水揚げは11年振り

計画を上回る水揚げとな

ったマダラ（牛滝漁港）

計画を上回る水揚げとな

ったマダラ（牛滝漁港）

計画を上回る水揚げとな

ったマダラ（牛滝漁港）



計画を上回る水揚げとなったマダラ（牛滝漁港）

大間原子力発電所対策特別委員会活動報告

大間原子力発電所の動向に注視

大間原子力発電所対策特別委員会 委員長 竹内 典和

大間原子力発電所の動

向については、電源開

発株式会社は平成26年12

月に新規制基準に適合し

ているかを確認する審査

を原子力規制委員会に申

請してから、これまでに

19回の審査会合が開催さ

れており、一日も早い審

査結果が待たれるところ

です。原子力規制委員会

からは、「世界でも実例の

ない原発であることから、

相当慎重に評価される」と

いう見解が示され、これ

からも厳しい審査が継続

の可能性ががあります。

このようなことから、

運転開始が未定であり、

稼動が大幅に遅れること

は、より一層地域経済が

疲弊し、雇用や地元経済

活動の影響がますます深

刻となります。しかし、

一方では、時間が費やさ

れようが、安全が確保で

きる発電所づくりが、最

も重要であると考えてお

ります。

当委員会は、平成29年

中に委員会を5回開催し、

電源開発株式会社から新

規制基準適合性審査の対

応状況、工事の概要等の

説明を受けました。また、

昨年9月には福島県の東

京電力福島第1原子力発

電所を視察し、あの東日

本大震災による事故から、

今後30年、40年かかる

とされる廃炉に向けた取

り組みの状況を確認しま

した。

大間原子力発電所は、

遠からず原子力規制委員

会による審査の結論が出

されると思いますが、村

には村独自の避難計画等

の策定について、その準

備に着手するなど、早め

の対応をお願いします。

当委員会としても、大

間原発を巡る動向を注視

しながら、常に新しい情

報を入手し、活動を活発

化させていきたいと考え

議会改革特別委員会活動報告 魅力ある議会づくりへの取り組み

議会改革特別委員会 委員長 竹内 典和

議会改革特別委員会は、昨年6回の委員会を開催し、特に議員の定数及び報酬等並びに「政策提言」についての議論を重ねました。

議員定数について、これ以上議員が減ることは、村の意思決定機関として議会の使命を果たすことが難しくなること、新たに意欲のある村民が立候補しにくくなることから、8人の現状維持とすることを確認しました。

議員報酬については、依然として厳しい村の財政事情を重く受け止め、引き続き期末手当を5パーセント削減し、加算率も適用しないという判断に立ちました。

なお、次の改選まで1年となるにあたり、村議会が抱える「魅力ある議会づくり」への課題として、会社員や各種職業を持つ人、主婦の方々など様々な階層から、意欲のある村民が誰でも議員に

立候補できるよう、議員報酬については、若い方々の生活に支障が出ない程度の額を確保することが望ましいことから、段階的に改正する必要があるとの意見を集約しました。平成14年度以降、厳しい村の財政事情を重く受け止め、議会自ら報酬月額を削減してきましたが、次期改選後に議員となる者からは平成22年当時の水準とするべく、村長に対して特別職報酬等審議会の開催を求めました。

また、「政策提言」については、テーマを防災に絞って議論を重ねました。その中で、災害対策に係る条例等についての一部改正並びに佐井村地域防災計画の目的達成のため防災避難道路を明確に認定すべきとして、村長に対して提言を行ないました。



村長へ「防災避難道路」に関する提言を行ないました

これからも、むらづくり基本条例で謳われた議会の役割と責務を果たすため、「気づいたことから」できることから」をモットーに、引き続き議会改革を推進しますので、関係各位のご指導ご協力をお願い申し上げます。

平成29年度議長交際費の支出内容

月 日	内 容	金 額
6月28日	行政視察先への土産（山形県飯豊町）	2,900円
7月21日	行政視察先への土産（新郷村ほか）	8,700円
7月27日	西目屋村議会・佐井村議会意見交換会御祝儀	7,280円
9月12日	前衆議院議員 木村太郎氏「お別れの会」香典	10,000円
9月26日	原子力発電所等先例地視察に伴う土産	8,700円
12月16日	「北通りクリスマスコンサート」御祝儀	5,000円
1月19日	むつ下北・市町村長議会議長との新年のつどい御祝儀	5,000円
合 計	件	47,580円

議会に対する村民の理解と信頼を深め、より開かれた村議会運営を図るため、平成29年度議長交際費の支出内容をお知らせします。

元気！で働くお年寄りを紹介



横浜 寿さん(87歳) 幸江さん(79歳) 磯谷
「仕事が趣味 働くことが生きがい」

△ 横浜寿さん・幸江さんご夫妻にお話を伺いました。
磯谷に生まれ、7人兄弟の長男として育った寿さん。30歳を目前にし、両親を安心させたいと結婚を意識するようになったちやうどその頃、幸江さんと出会ったそうです。幸江さんは当時、浪岡(現青森市)に住んでおり、弘前市内の洋裁学校に通っていました。勉強は嫌いだったけど、縫い物や編み物が好きで、その勉強をしていたところ寿さんに見初められ、磯谷に嫁いでこられました。

「4月10日が結婚記念日。59年になるから、もうすぐ定年退職だ」と笑う幸江さん。「長くいれば、たまにはけんかもする。でも、それで力をもらうこともあるんだよ」と教えてくれた寿さん。
そんな『カネヤマ』さんご夫妻は、誰もが認める働き者。この日も、寿さんが採ってきたウニを幸江さんと2人でむいていました。
「親戚も少ないから、手伝いを頼む人もいない。2人でゆっくりやっても、集荷の時間間に合えば良いから」と幸江さん。それでも、手を休



ネギを植える準備をしています

めることはなく、素早く動かし続けます。
寿さんは、むき終わったウニの殻をつぶし、袋に入れていきます。
「これを畑にまくと、ジャガイモなどの作物がおいしくなる。最高のカルシウム肥料だ」とのこと、畑にも伺いました。
2 か所で20アールほどの畑では、大根や白菜、ネギなどの野菜を育てています。自分たちで食べるほか、手づくりマートに出荷したり、知り合いに分けたりしているそうです。



立派に育ったホウレン草

「畑にサルが来なければもつと良い。野菜はマートに出荷すると、すぐに売れてしまいうよ」と幸江さん。「収入を得ることが目的ではないから、無理せず健康のために続けている」と寿さん。
今の時期は5時に起きてウニ漁をし、出荷後は昼食を取って昼寝。天気が良ければ畑に出るというお二人の生きがいは『働くこと』。
「やれるだけのことを、やるだけだよ」と、今日も笑顔で働いていらっしやいます。
これからも夫婦仲良く、無理せず頑張ってください。

◇ 編集後記 ◇

青葉若葉のさわやかな風が吹く季節となりました。村長選挙と併せて行なわれる議会議員補欠選挙により、当議会へも新しい風が吹くことを期待します。

さて、3月定例会では新年度予算や議案が審議され、3名の議員が村づくりや喫緊の課題、期待される事業の今後についてなど、村政を問い質しました。

これからも議会だよりを通じて村民のみなさんと議会の懸け橋になれるよう、分かりやすい紙面づくりを目指していきますので、みなさんのご意見をお聞かせください。

(山口)

議会広報編集委員会

- 委員長 田中 岩男
- 副委員長 山口 捷夫
- 委員 宮川 尚
- 委員 竹内 典和
- 委員 川畑 勲夫